

2022年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等に 係る調査結果

2023年6月
総務省情報流通行政局
情報流通振興課
情報活用支援室

目次

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するための
リテラシー指標等に係る調査
－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－
2. ILASの実施概要
3. 2022年度ILASの結果
4. 高校生のインターネット利用実態
5. フィルタリング利用状況
6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計）
7. 参考

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が必要。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(青少年インターネットWG)の提言(2011年10月)やOECD勧告として成立した「オンライン上の子供の保護に関する勧告」(2012年2月)を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標(ILAS:アイラス)として開発。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施してきた。
- 今年度は、協力を得られた100校の高等学校において、2022年11月から2023年1月にかけてテスト及びアンケートを実施。その結果を集計・分析し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果」として取りまとめた。

■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」(2009年4月1日施行)

【基本理念】

①青少年の適切なインターネット活用能力の習得(インターネット利用に係るリテラシー向上)、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化(フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み)、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(青少年インターネットWG)提言(2011年10月)

2. 各関係者に求められる役割等 (中略)

行政には、(特にインターネット上の危険への対処に係る)インターネット・リテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会 (2011年9月～2012年3月)

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

(顧問)堀部政男(一橋大学名誉教授)、渡部洋(東京大学名誉教授)、(座長)赤堀侃司(白鷗大学教育学部長・教授)、(座長代理)新井健一(ベネッセ教育研究開発センター長)[※]

※ 各有識者の所属は当時のものを記載

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) －

- 2022年度調査については、2021年1月にOECDの「デジタル環境下の子供 改定リスク類型」が発行されたことや、2021年5月に採択された「デジタル環境下の子供に関する勧告」でデジタルリテラシーや能力の定期的な測定等について言及されていることも踏まえ、現在必要とされている青少年のインターネット・リテラシーの能力測定の精度向上のため、改修検討委員会やプレテスト等を行いILAS及び指標テストの内容の見直しを実施、それを反映したものである。
- 改修検討委員会等で検討を重ねた結果、改定リスク類型で新たに加わった分類は既存のILASのリスク分類に包含できるものと整理可能であり、かつ、経年的なリテラシー習得状況測定のため大幅な改修は行わないこととした上で、複数の質問において新規追加/廃止/文言内容の修正といった措置を行っている。
- なお、2022年度調査においては、改修したILASテストの継続性等を確認するため、改修後ILASテスト及び改修前のILASテストの2種類を用いてテストを実施。特記の無い限り改修後のテストの結果を用いている。

■2022年度のILAS改定前後のポイント

1. 今回の改定では、現在の7分類の構造と継続性を維持する方針のもと、大幅な変更は行わず、テスト問題における一部改修にとどめる。
2. 青少年を取り巻く現在のインターネット環境に則していないテーマを含む問題や、問題間でテーマが重複している問題を改修対象とし、青少年がインターネットを利用する上で問題となっているテーマやトピックを取り入れた新たな問題を作成し、旧問題との入れ替えを行う。
3. 現在のILASのテスト問題について、内容を改めて見直し、用語として古いものや表現のばらつきが見られる問題については、用語の刷新や文体を統一するなど、部分的に変更・修正を行う。

■青少年のインターネット・リテラシー改修検討委員会・改修検討ワーキンググループ（2022年2月～2022年10月）

基礎的なインターネットに関する知識はもちろんのこと、実際に学校現場で勤務をされている教職員の方々や法学や統計学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、この能力を明らかにするテストの開発・改修・分析・整理を実施。
(座長) 赤堀侃司(東京工業大学・名誉教授) 他 改修検討委員会とワーキンググループを合わせて計16名、延べ6回の会合を開催

2. ILASの実施概要

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

2022年11月から2023年1月にかけて、全国100校の国公立・私立の高等学校等において、計15,333名の1年生相当を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。各校において、受験者の8割が改修版テスト、2割が改修前テストを受験（受験者数が10人以下の学校は改修版テストのみ）。

併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

所在区分		設立区分		協力人数		平均正答率(改修版テスト)	
特別区等	17校	国公立	77校	男子	7,825 人	男子	69.6%
中核市	11校	私立	23校	女子	7,222 人	女子	72.8%
その他	72校			性別無回答	286 人		
計100校				計	15,333人	全体	71.1%

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

「青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会」（2011年9月～2012年3月、座長：赤堀侃司白鷗大学教授（当時））において、OECDの「インターネット上の青少年保護に関するレポート」（2011年5月）におけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）に関し、以下の項目に整理。

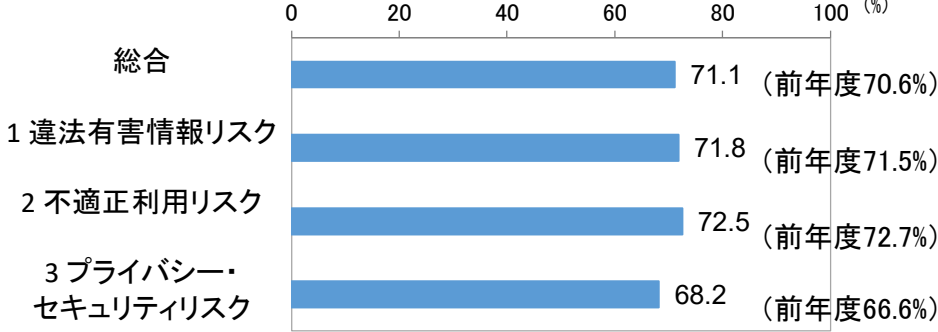
【青少年に必要なリスク対応能力】

- インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力 **【違法有害情報リスクへの対処能力】**
 - 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。 **【違法情報リスク】**
 - 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。 **【有害情報リスク】**
- インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力 **【不適正利用リスクへの対処能力】**
 - 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。 **【不適切接触リスク】**
 - 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。 **【不適正取引リスク】**
 - 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。 **【不適切利用リスク】**
- プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力 **【プライバシー・セキュリティリスクへの対処能力】**
 - プライバシー保護を図り利用できる。 **【プライバシーリスク】**
 - 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。 **【セキュリティリスク】**

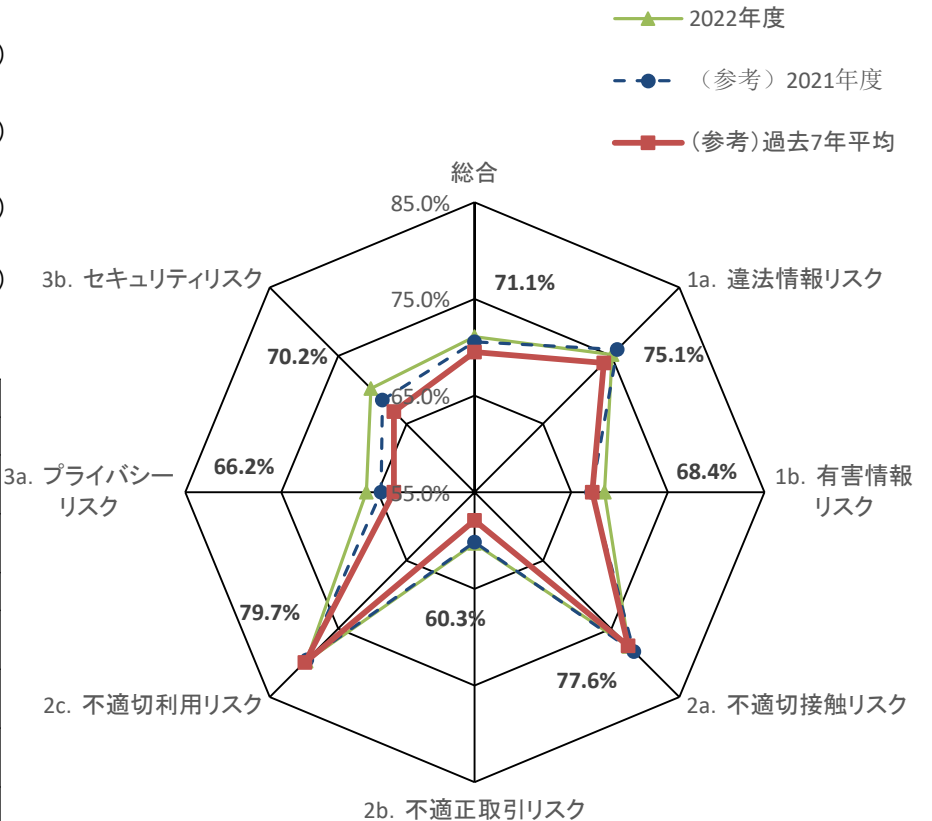
3. 2022年度ILASの結果（結果概要）

- リスクの大分類別については、「3 プライバシー・セキュリティリスク」（68.2%）が最も低い。
- リスクの中分類別については、「2c. 不適切利用リスク」（79.7%）、「2a. 不適切接触リスク」（77.6%）が高く、「2b. 不適正取引リスク」（60.3%）、「3a. プライバシーリスク」（66.2%）が低い傾向である。

【図表1】正答率(大分類)



【図表2-1】正答率(中分類)



【図表2】正答率(中分類)

総合	71.1%	(前年度70.6%)
1 違法有害情報リスク	71.8%	(前年度71.5%)
1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	75.1%	(前年度75.9%)
1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	68.4%	(前年度67.1%)
2 不適正利用リスク	72.5%	(前年度72.7%)
2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	77.6%	(前年度78.3%)
2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	60.3%	(前年度60.2%)
2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	79.7%	(前年度79.6%)
3 プライバシー・セキュリティリスク	68.2%	(前年度66.6%)
3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	66.2%	(前年度64.7%)
3b. セキュリティリスク ID・パスワード、ウイルス等	70.2%	(前年度68.5%)

※ラベルは2022年度の数値
※今回、一部問題の改修を行ったため、前回の結果は参考値として扱う。

3. 2022年度ILASの結果（過去結果（参考））

- 改修前後のテストにおける継続性は確認しているが、一部設問の改修を行っているため、前回までの結果は参考値として扱っている。
- 項目別の正答率について、7つのリスク分類の中で「2b. 不適正取引リスク」は正答率（60.3%）が最も低く、「2c. 不適切利用リスク」は正答率（79.7%）が最も高い。

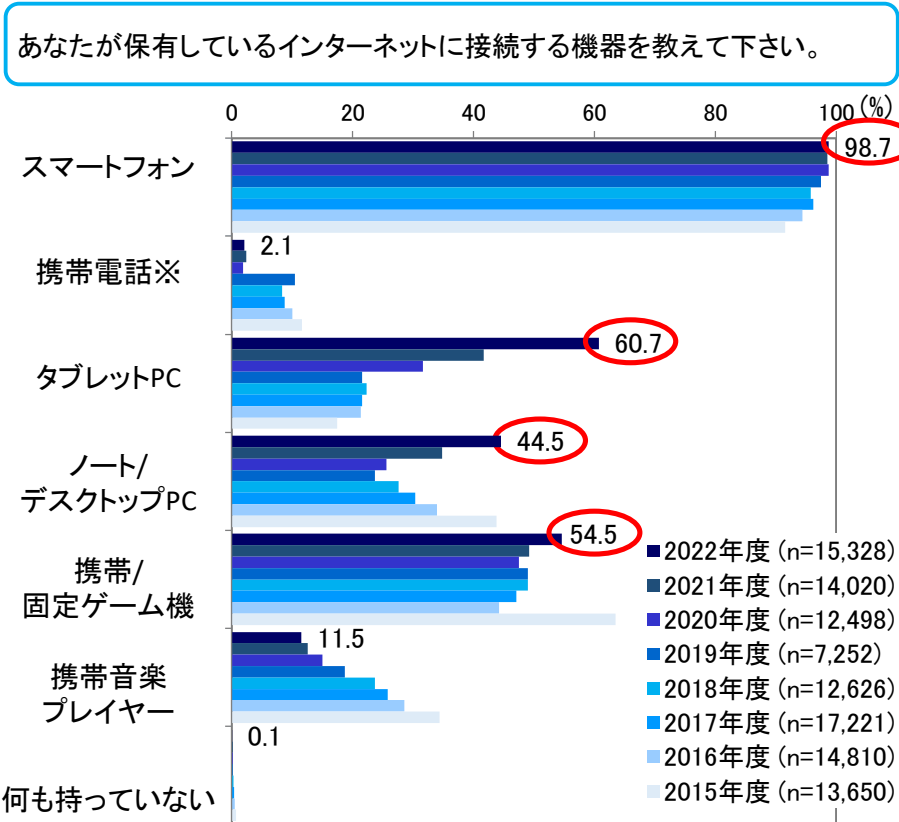
【図表】

リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)	2019年度 (n=7,252)	2020年度 (n=12,499)	2021年度 (n=14,021)	(参考) 過去7年 平均	2022年度 (n=12,250)
総 合	－	69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.7%	72.0%	70.6%	69.5%	71.1%
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、 出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.4%	76.0%	75.9%	73.9%	75.1%
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、 閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	66.0%	69.1%	67.1%	67.2%	68.4%
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メー ル、SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	76.6%	79.3%	78.3%	77.5%	77.6%
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、 ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	57.3%	61.9%	60.2%	57.9%	60.3%
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、 歩きスマホ、マナー 等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	78.9%	81.5%	79.6%	79.9%	79.7%
3a. プライバシーリス ク	プライバシー、 個人情報の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.0%	66.2%	64.7%	63.4%	66.2%
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、 ウイルス等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	66.8%	69.9%	68.5%	66.8%	70.2%

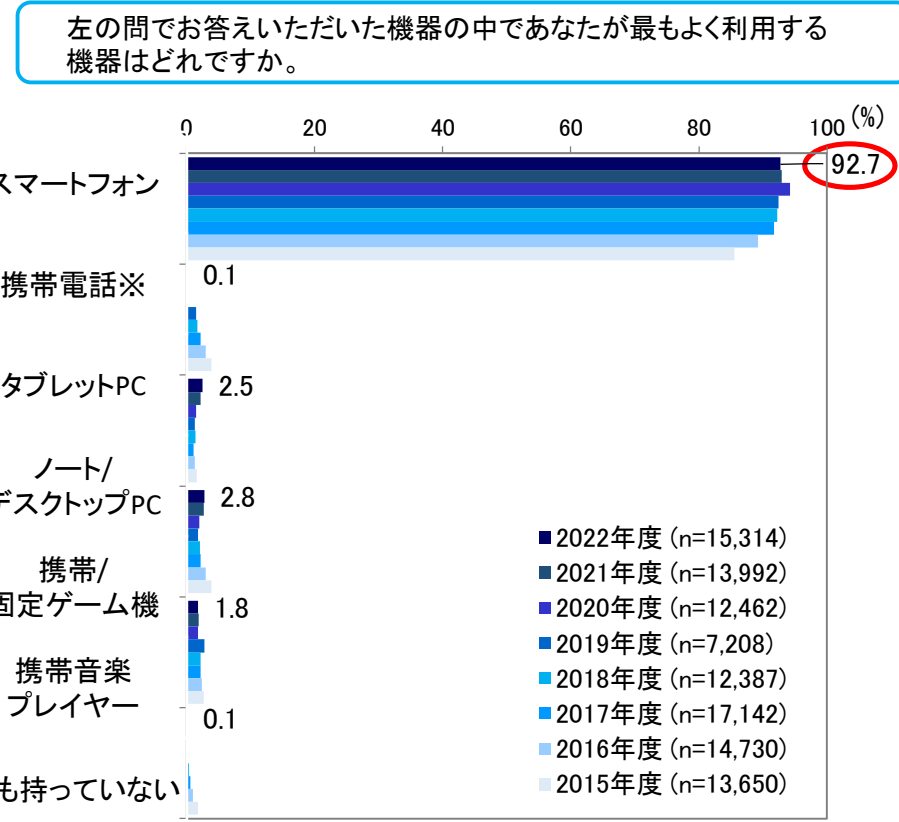
4. 高校生のインターネット利用実態（保有機器）

- 高校生の98.7%がインターネット接続機器として「スマートフォン」を保有している。そのほかでは、2020年度から急増している「タブレットPC」の保有率は6割を超え（60.7%）、「ノート／デスクトップPC」（44.5%）も増加傾向が続いている。「携帯／固定ゲーム機」も54.5%と半数を超えた。【図表1】
- 保有するインターネット接続機器のうち最もよく利用する機器として、高校生の92.7%がスマートフォンをあげている。【図表2】

【図表1】保有するインターネット接続機器（複数回答）



【図表2】保有するインターネット接続機器のうち、最もよく利用する機器（択一回答）



※（図表1・図表2とも）「携帯電話」：2021年まで携帯電話/PHSで聴取。
（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

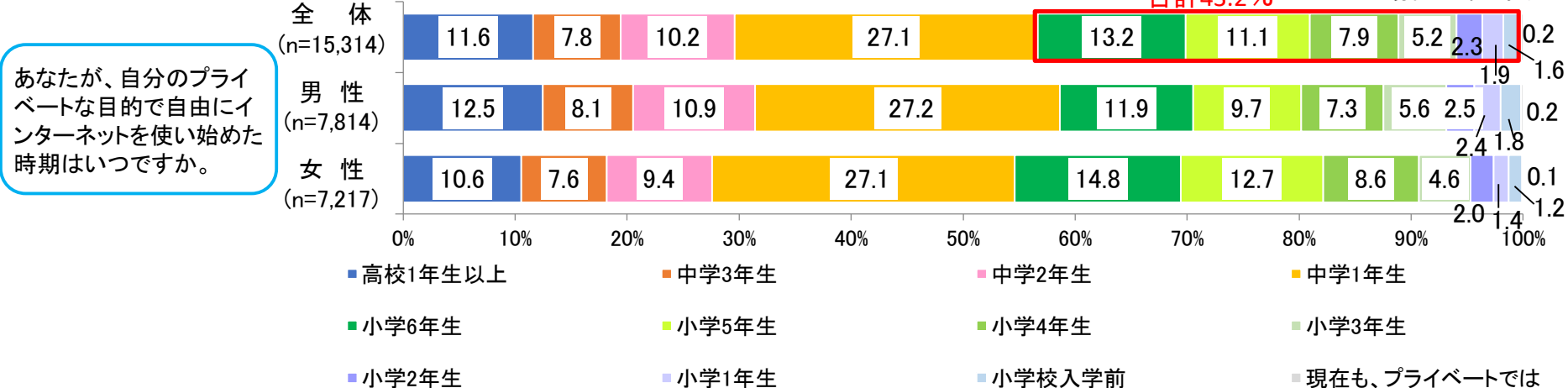
4. 高校生のインターネット利用実態（インターネット利用開始時期と教えた人）

- インターネットを自由に使い始めた時期について聞くと、「中学1年生」が全体の27.1%で最も多く、中学入学前（小学6年生以下）の回答が43.2%を占めた。【図表1】
- インターネットを自由に使い始めた時期に使い方を主に教えてもらった人は「保護者」が48.3%と最も多く、「誰にも教わらなかった／特に調べなかった」は全体の21.0%を占めた。

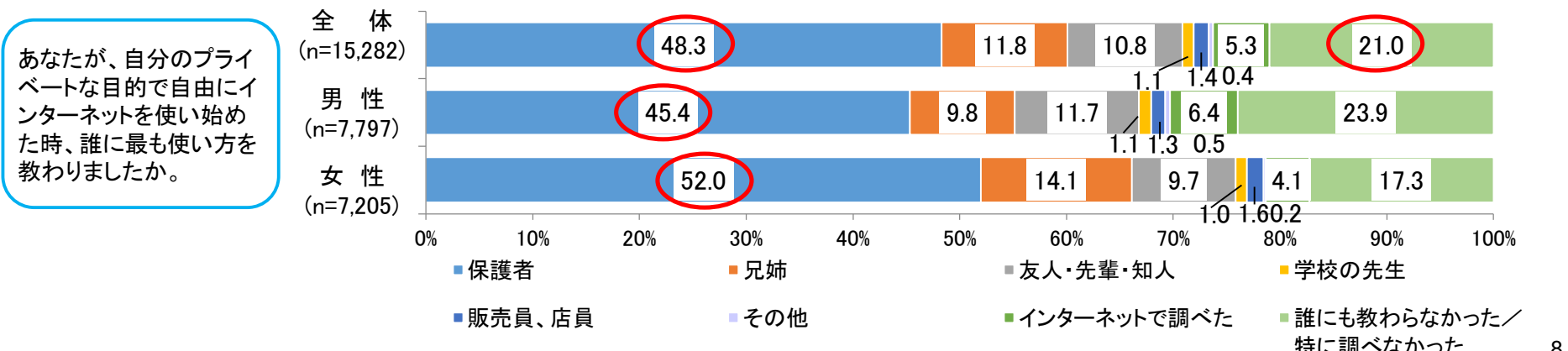
【図表2】

【図表1】インターネット利用開始時期（択一回答）

（※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある。）



【図表2】インターネット利用開始時に使い方を主に教えてもらった人（択一回答）



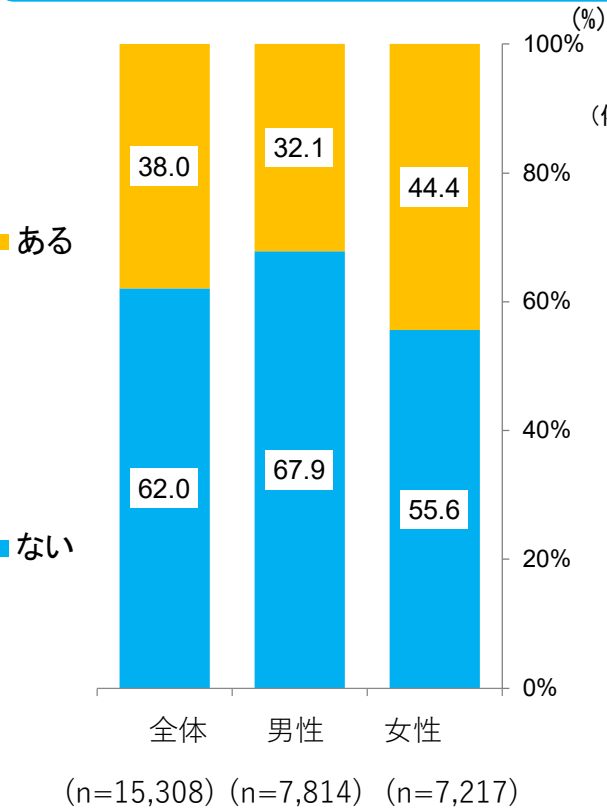
（出典） 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

4. 高校生のインターネット利用実態（家庭でのルール）

- スマートフォンやSNSを利用する際の家庭でのルールの有無を聞くと、「ある」は全体の38.0%であった。【図表1】
- ルールがある場合「発信情報の制限」（53.2%）が最も多く、次いで「情報公開（個人情報）の制限」（40.9%）が多い。【図表2】

【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)

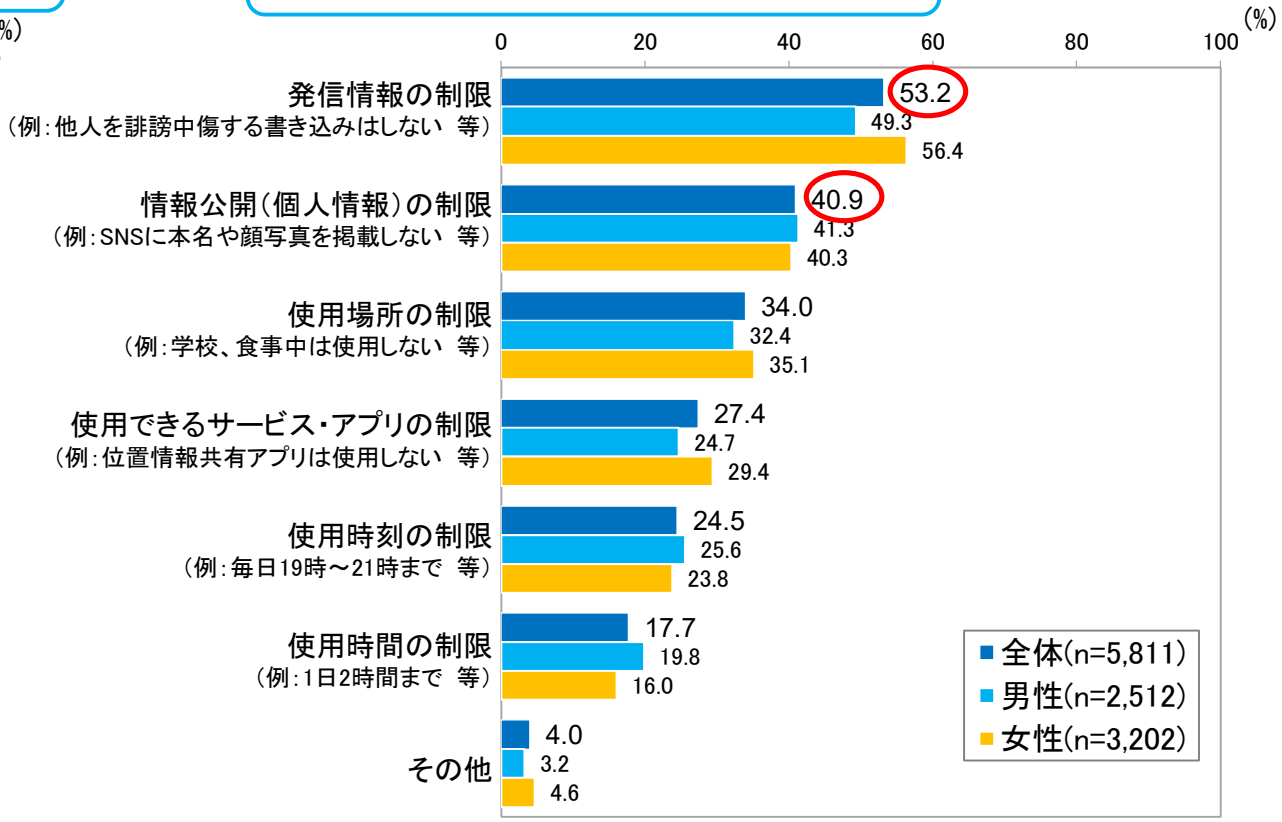
スマートフォン等やSNSを利用する際の家庭でのルールがありますか。



【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)

(家庭でのルールが「ある」と回答した者ベース)

家庭ではどのようなルールがありますか。

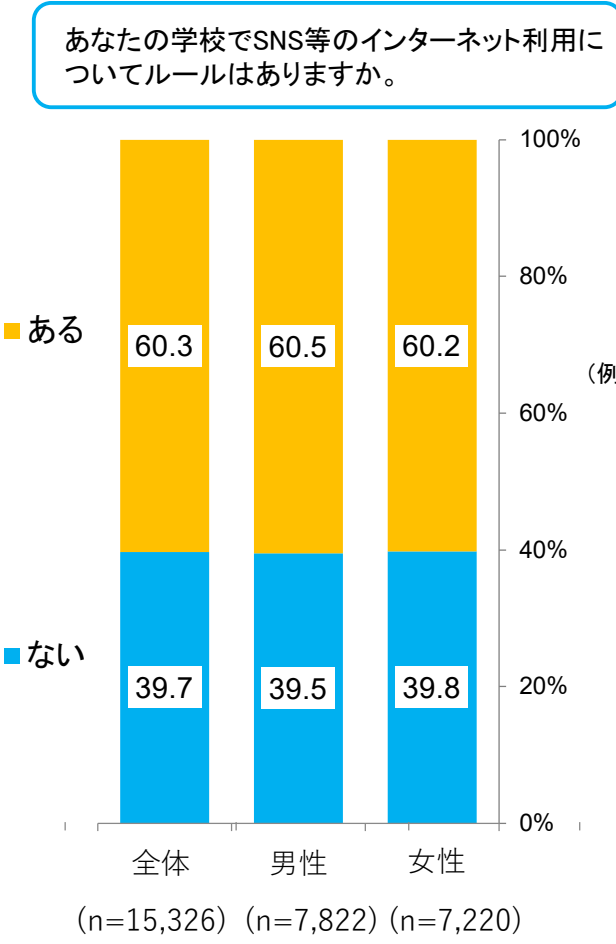


(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

4. 高校生のインターネット利用実態（学校でのルール）

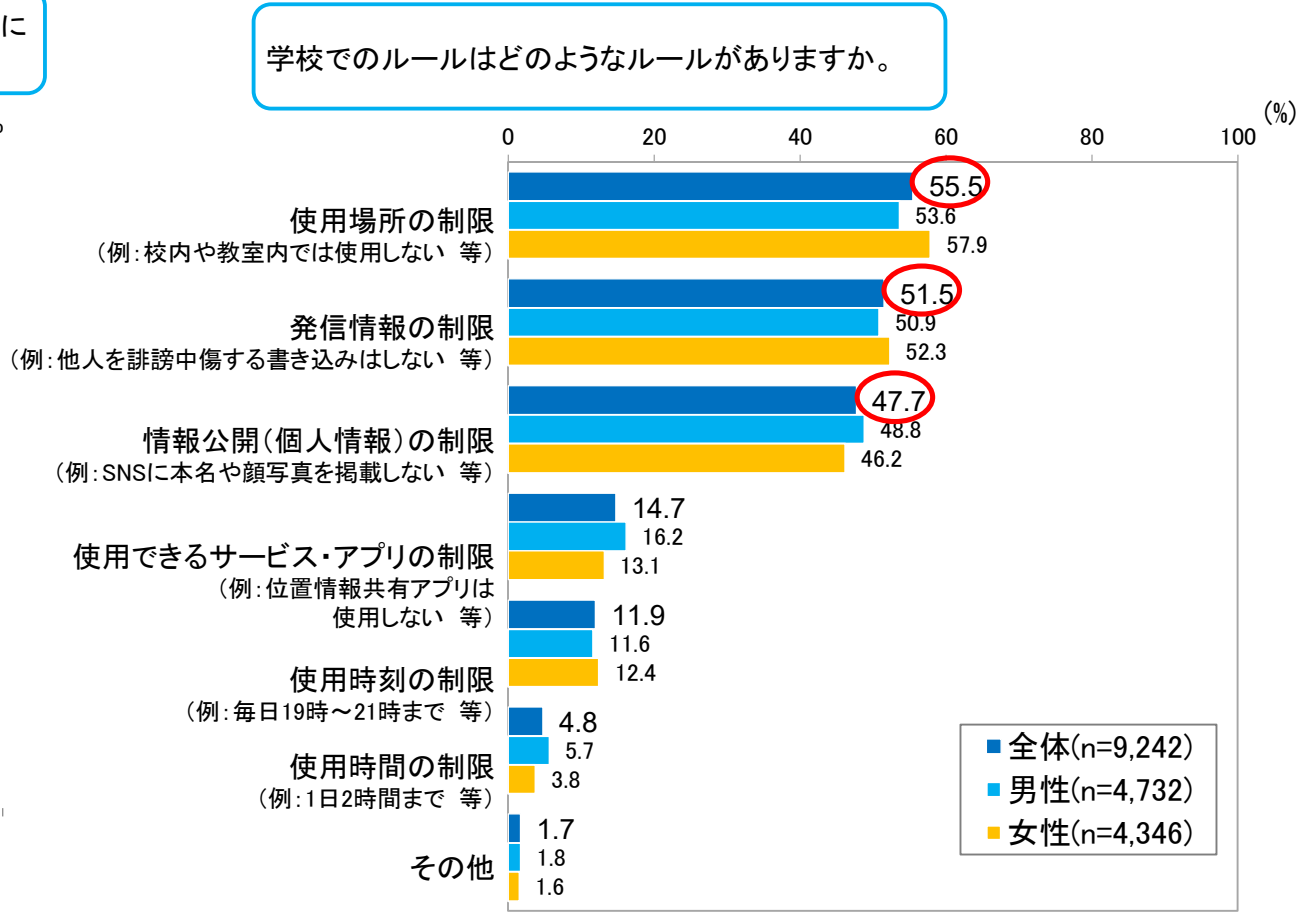
- スマートフォンやSNSを利用する際の学校でのルールの有無を聞くと、「ある」は全体の60.3%。【図表1】
- ルールがある場合「使用場所の制限」（55.5%）が最も多く、次いで「発信情報の制限」（51.5%）、「情報公開（個人情報）の制限」（47.7%）の順だった。【図表2】

【図表1】学校でのルールの有無(択一回答)



【図表2】学校でのルールの内容(複数回答)

(学校でのルールが「ある」と回答した者ベース)

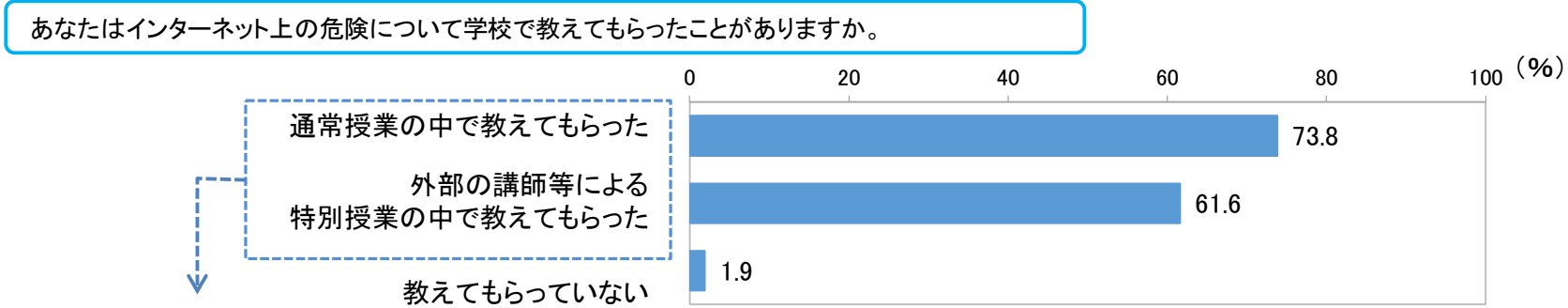


(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

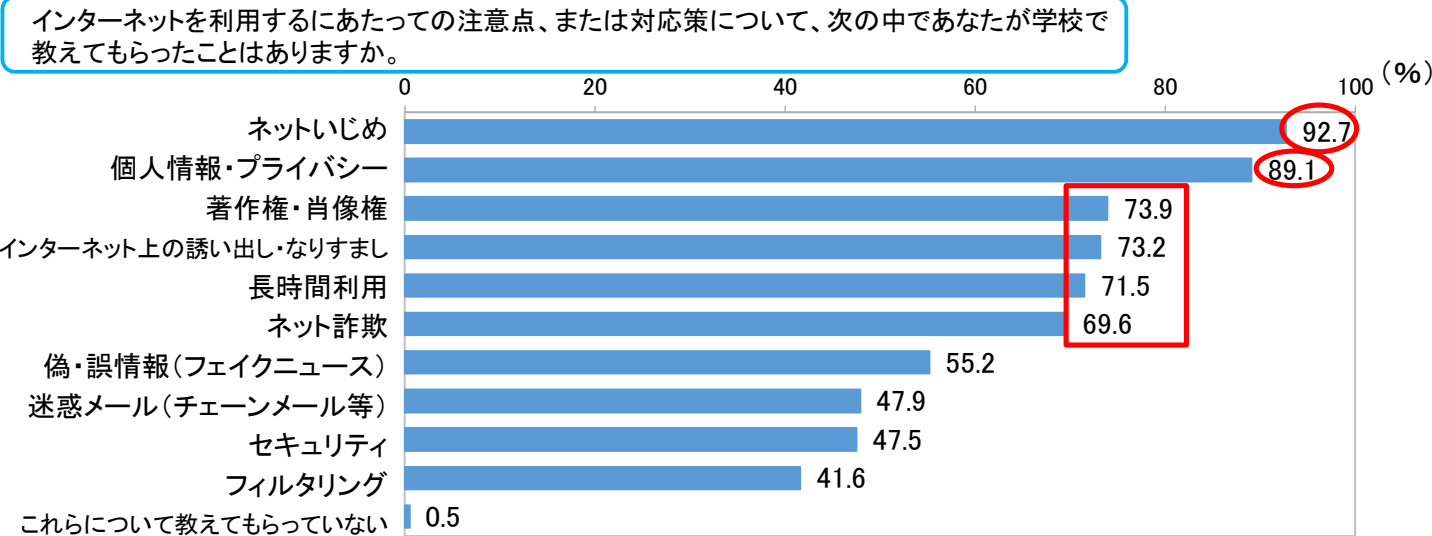
4. 高校生のインターネット利用実態（学校での学習）

- インターネットの危険について教えられた経験については、73.8%が通常授業の中で、61.6%が外部の講師等による特別授業の中で教えてもらっている。【図表1】
- 学校で教えてもらったことがある場合、教えられた内容については、「ネットいじめ」（92.7%）、「個人情報・プライバシー」（89.1%）、次いで「著作権・肖像権」「インターネット上の誘い出し・なりすまし」「長時間利用」「ネット詐欺」がいずれも7割前後で続く。【図表2】

【図表1】インターネット上の危険に関する学校での学習（複数回答）(n=15,302)



【図表2】授業で教えられた内容（複数回答）(学校で教えてもらった者ベース n=15,016)



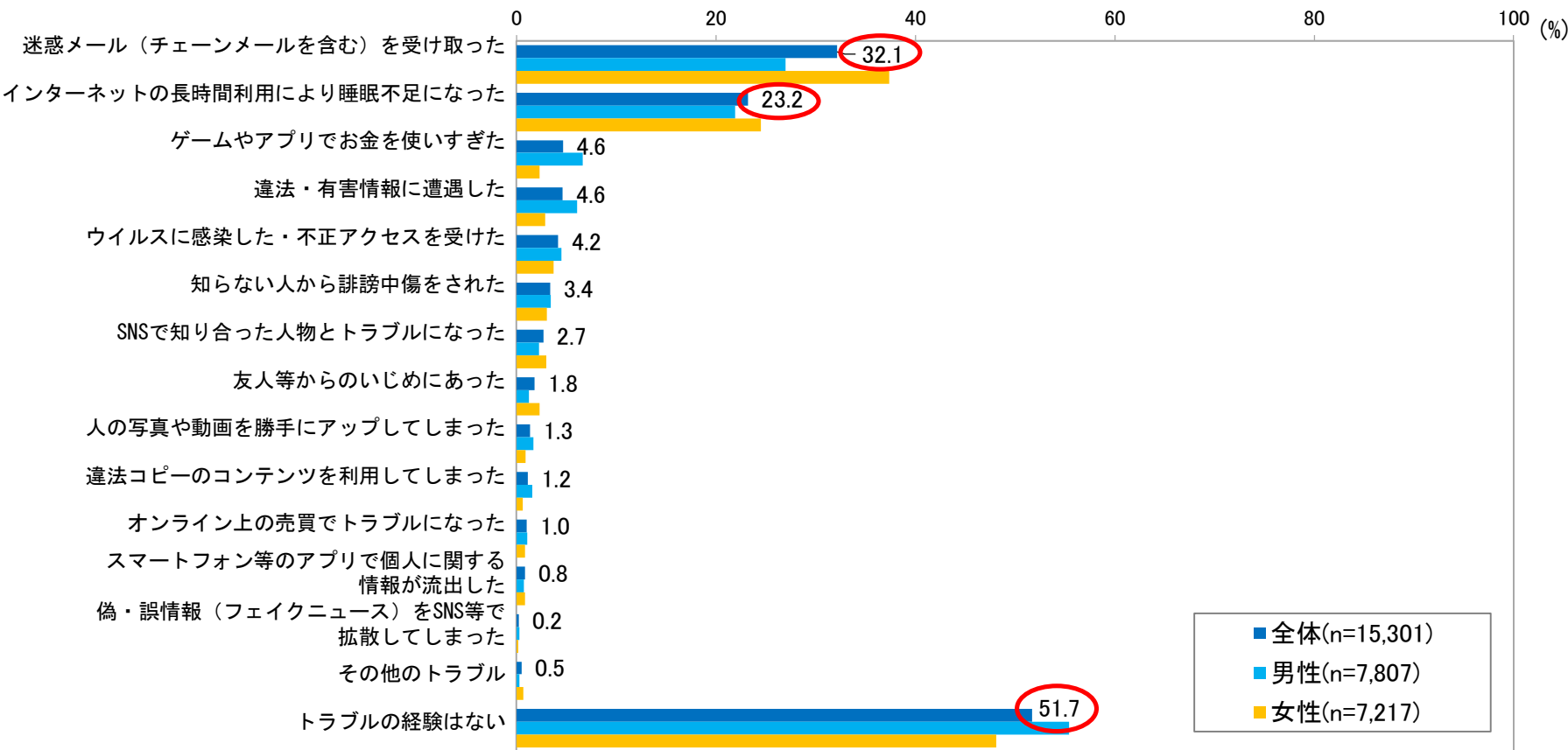
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

4. 高校生のインターネット利用実態（トラブル遭遇状況）

- トラブル遭遇経験を聞くと、「トラブルの経験はない」は全体で51.7%であった。
- 遭遇したトラブル内容については、「迷惑メールを受け取った」（32.1%）が最も多い。「インターネットの長時間利用により睡眠不足になった」が23.2%で次点、その他の項目はいずれも10%未満であった。

【図表1】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル（複数回答）

インターネットの利用に際して、次のようなトラブルの経験はありますか。



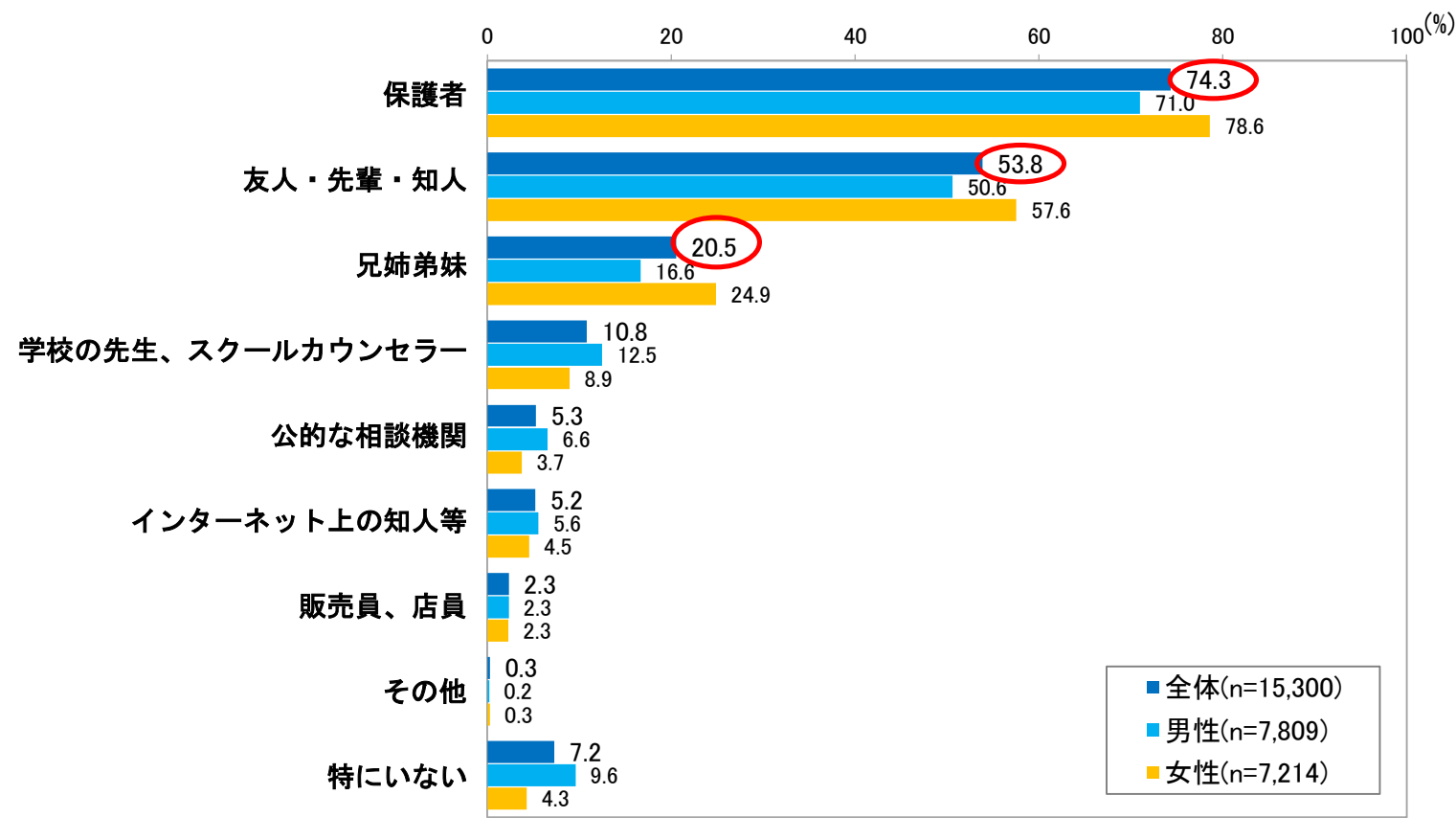
（出典） 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

4. 高校生のインターネット利用実態（トラブル遭遇時に相談する相手）

- トラブル遭遇時に相談する相手を複数回答で聞くと、「保護者」が74.3%で最も多く、次いで「友人・先輩・知人」（53.8%）、「兄弟姉妹」（20.5%）の順だった。

【図表1】トラブル遭遇時に相談する相手（複数回答）

あなたはインターネット上のトラブルがあった場合、相談する人は誰ですか。

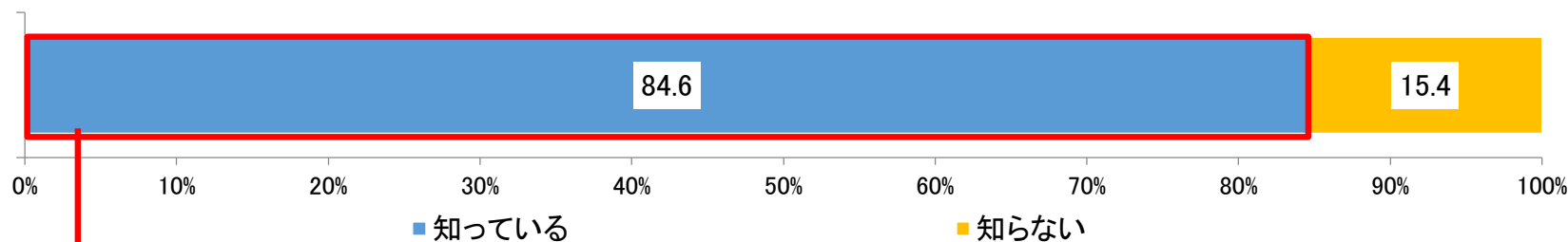


5. フィルタリング利用状況（フィルタリングの認知と利用状況）

- スマートフォンを利用している高校生のうち84.6%がフィルタリングを認知している。【図表1】
- フィルタリングを認知している高校生のうち、44.4%がフィルタリングを利用し、36.5%が利用していない。【図表2】

【図表1】フィルタリングの認知状況（択一回答）（スマートフォン保有者ベース、n=15,126）

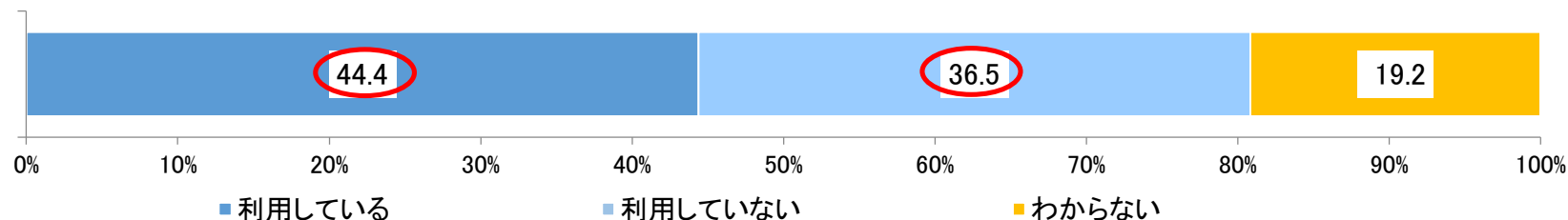
あなたはフィルタリング（あんしんフィルター等のアプリだけでなく、スクリーンタイムやファミリーリンク等のOS機能やサービスも含みます。）を知っていますか。



【図表2】フィルタリングを認知している※高校生のフィルタリング利用状況（択一回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「知っている」と回答した者ベース n=12,799）

あなたはフィルタリングサービスまたは機能制限を利用していますか。



（※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある）

5. フィルタリング利用状況（インターネット利用開始時期別の利用状況）

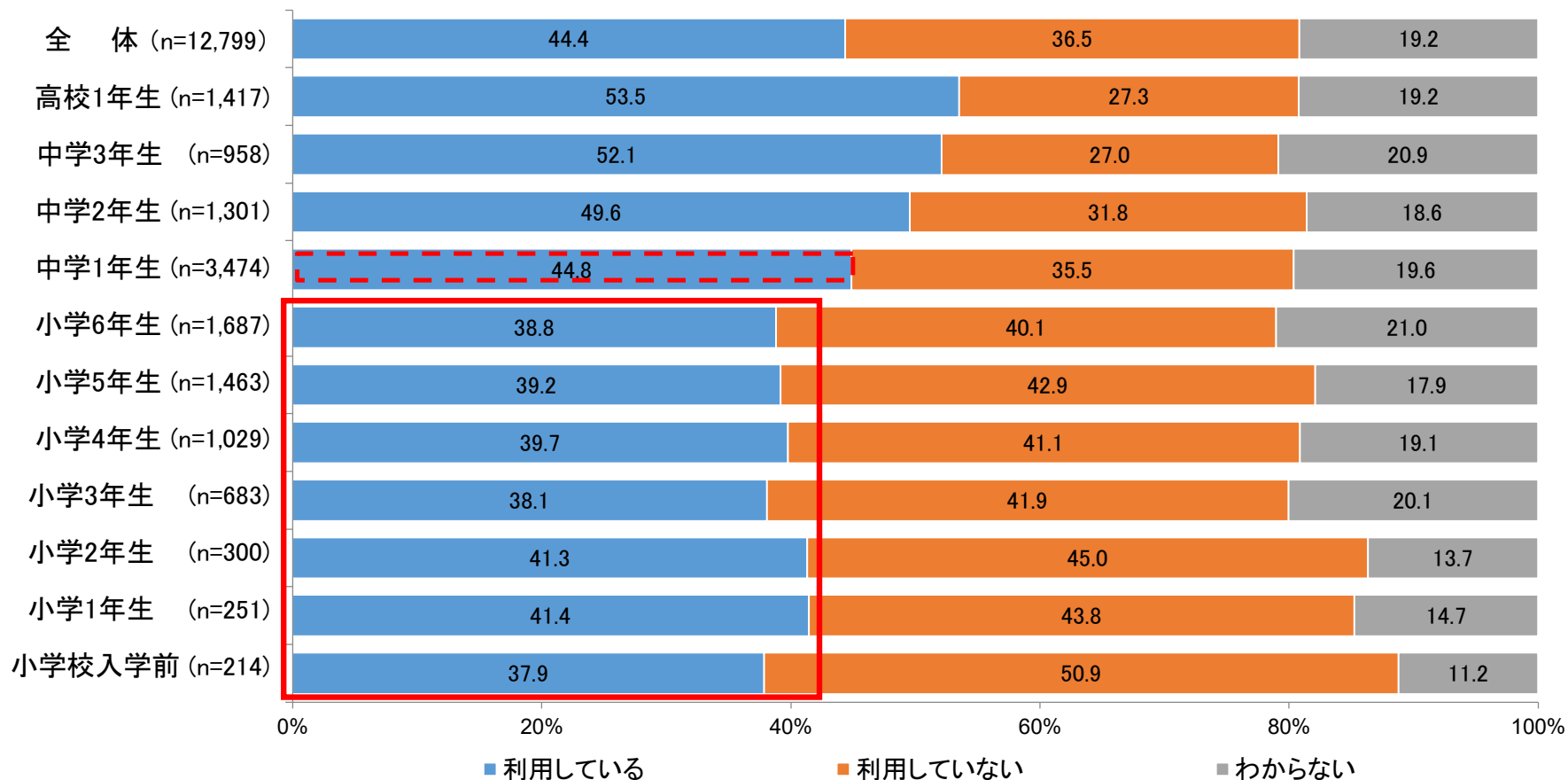
- スマートフォン保有者について、インターネット利用開始時期と現在のフィルタリング利用状況の関連をみると、「利用している」率は小学6年生以下で利用開始した者ではおおむね4割前後。中学1年生で44.8%と高くなり、それ以降は、利用開始時期が遅いほどフィルタリング利用率が高い。

【図表】フィルタリング利用状況（択一回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「知っている」と回答した者ベース）

あなたはフィルタリングサービスまたは機能制限を利用していますか。

（※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある）



※「現在も、プライベートではインターネットを利用していない」(n=10)と回答した者は少数のためグラフより割愛した

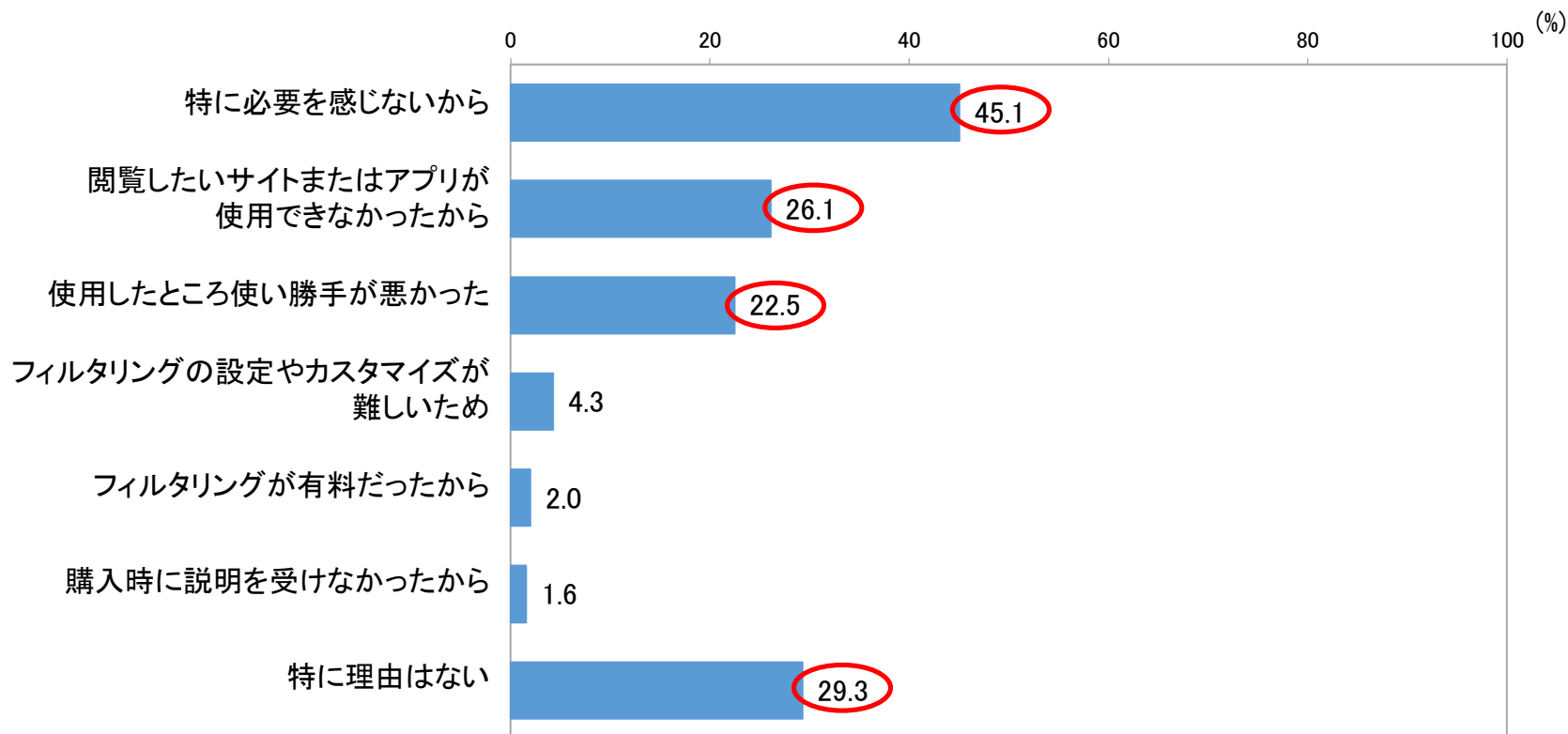
5. フィルタリング利用状況（フィルタリングを利用しない理由）

- 現在フィルタリングを利用していない理由を複数回答で聞くと、「特に必要を感じないから」が45.1%と最多で、次いで「閲覧したいサイトまたはアプリが使用できなかったから」（26.1%）、「使用したところ使い勝手が悪かった」（22.5%）の順。「特に理由はない」が29.3%を占めた。

【図表1】フィルタリング非利用理由（複数回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「知っている」と回答した者のうち、フィルタリングを現在利用していない者ベース、n=4,653）

現在、フィルタリングを利用していない理由をお答え下さい。



5. フィルタリング利用状況

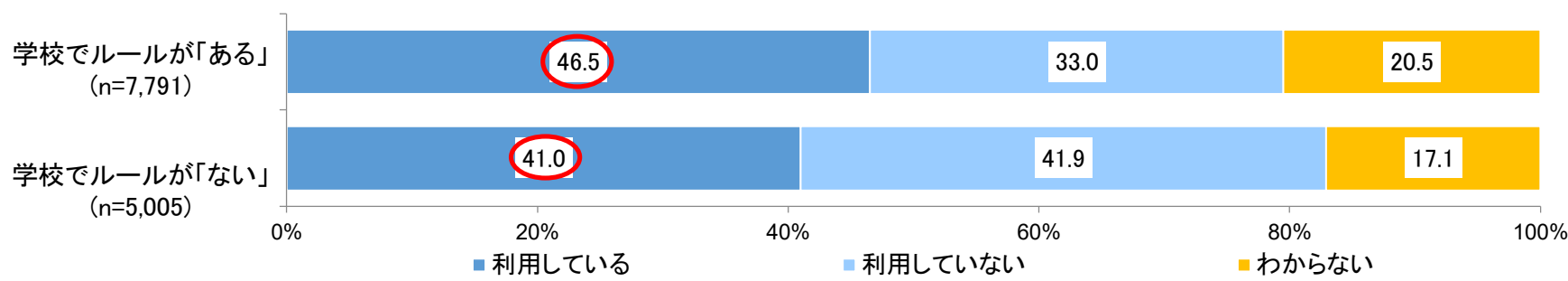
(学校・家庭でのSNS等のルールとフィルタリングの利用状況)

スマートフォンを保有し、フィルタリングを認知している高校生のうち、

- 学校におけるSNS等のインターネット利用についてルールがある場合、フィルタリング利用率は46.5%であり、ルールがない場合の利用率(41.0%)と比較して高い。【図表1】
- 家庭におけるSNS等のルールがある場合、フィルタリング利用率は61.3%であり、ルールがない場合の利用率(33.4%)と比較して著しく高い。【図表2】

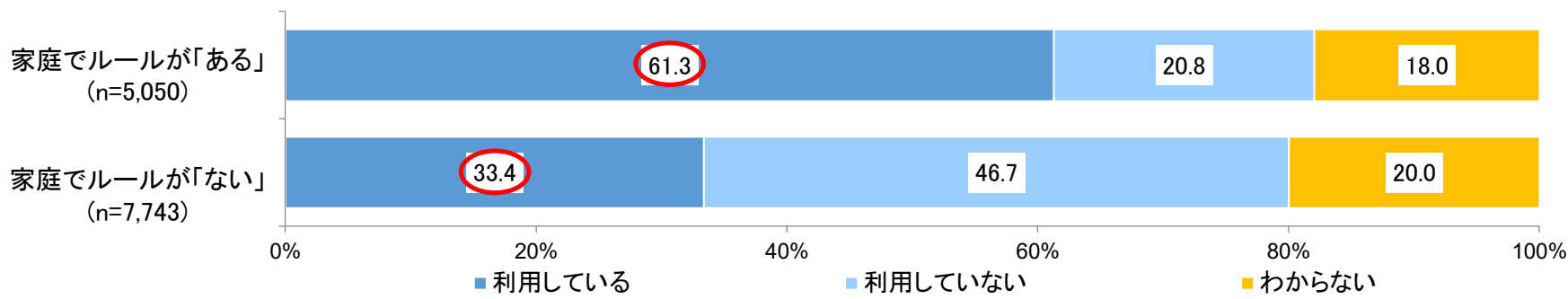
【図表1】学校のSNS等のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「知っている」と回答した者ベース)



【図表2】家庭のSNS等のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「知っている」と回答した者ベース)



(※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （平日 1 日当たりの平均利用時間）

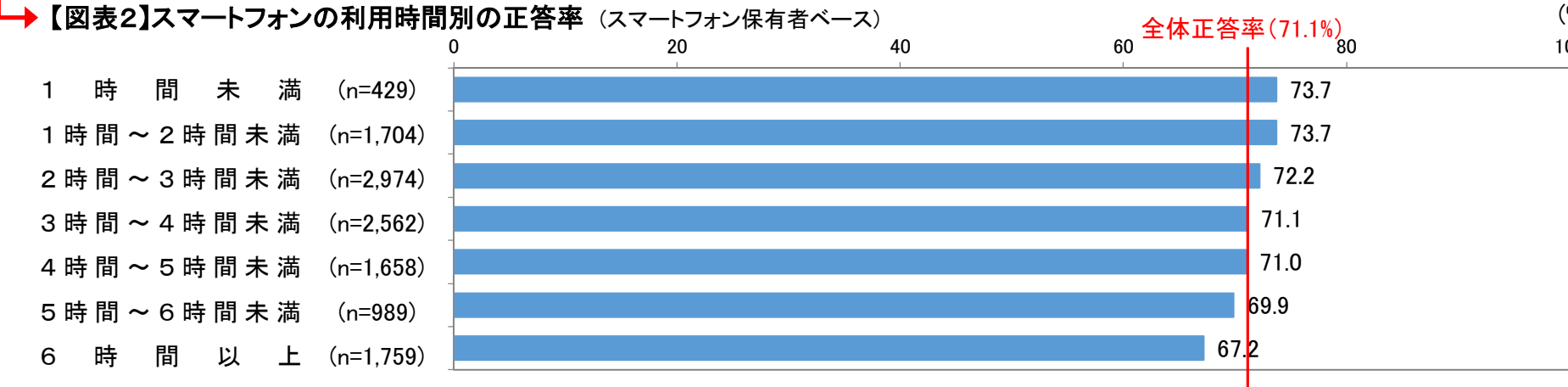
- スマートフォンの平日 1 日当たりの平均利用時間は、2～3 時間未満の割合が最も多く（24.6%）、次いで「3～4 時間未満」が21.3%と多い。また、57.7%がスマートフォンを 3 時間以上利用している。【図表 1】
- 平日のスマートフォン利用時間別にILASの総合正答率の違いの有無をみると、利用時間が長いほど、正答率が低い傾向が見られた。【図表 2】

あなたが平日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

【図表 1】平日 1 日当たりの平均利用時間（択一回答） 〔各機器保有者における割合：％〕

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン（n=15,112）	3.5	14.2	24.6	21.3	13.8	8.2	14.5
携帯電話（n=320）	75.6	7.2	4.1	3.4	3.4	1.6	4.7
タブレットPC（n=9,250）	60.6	21.4	9.2	4.3	1.9	1.0	1.4
ノートPC/デスクトップPC（n=7,606）	65.8	18.1	7.8	3.6	1.8	0.9	1.9
携帯ゲーム機/固定ゲーム機（n=11,792）	65.2	19.1	8.4	3.4	1.6	0.8	1.5
携帯音楽プレイヤー（n=1,759）	72.1	15.9	5.7	3.0	1.3	0.6	1.4

（※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、表内の値の足し上げが100%にならない場合がある）



（出典） 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校 1 年生）の結果を基に作成。

6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （休日 1 日当たりの平均利用時間）

- スマートフォンの休日 1 日当たりの平均利用時間は、6 時間以上の利用が最も多く（32.0%）、3 時間以上利用者は約 8 割（78.5%）を占める。
- スマートフォン以外では、「携帯ゲーム機／固定ゲーム機」が平日に比べて「1 時間以上」の長時間の利用が多くなっている。逆に「タブレットPC」は「1 時間未満」の短時間利用が68.2%と、平日より多くなっている。

あなたが休日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

〔各機器保有者における割合：%〕

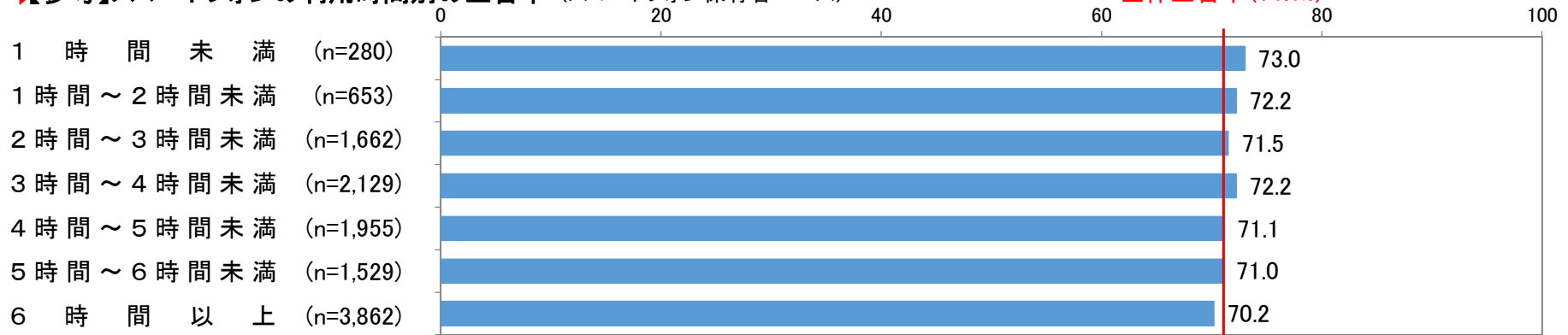
【図表】休日1日当たりの平均利用時間（択一回答）

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン (n=15,106)	2.3	5.4	13.9	17.5	16.2	12.8	32.0
携帯電話 (n=319)	72.7	5.6	4.1	3.8	4.1	1.9	7.8
タブレットPC (n=9,246)	68.2	14.7	6.9	4.0	2.1	1.1	3.0
ノートPC/デスクトップPC (n=7,601)	68.7	12.8	6.4	4.1	2.3	1.5	4.2
携帯ゲーム機/固定ゲーム機 (n=11,784)	53.2	18.0	13.0	6.5	3.1	1.7	4.4
携帯音楽プレイヤー (n=1,757)	67.9	15.2	8.7	2.8	2.0	0.9	2.5

（※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、表の値の足し上げが100%にならない場合がある）

【参考】スマートフォンの利用時間別の正答率（スマートフォン保有者ベース）

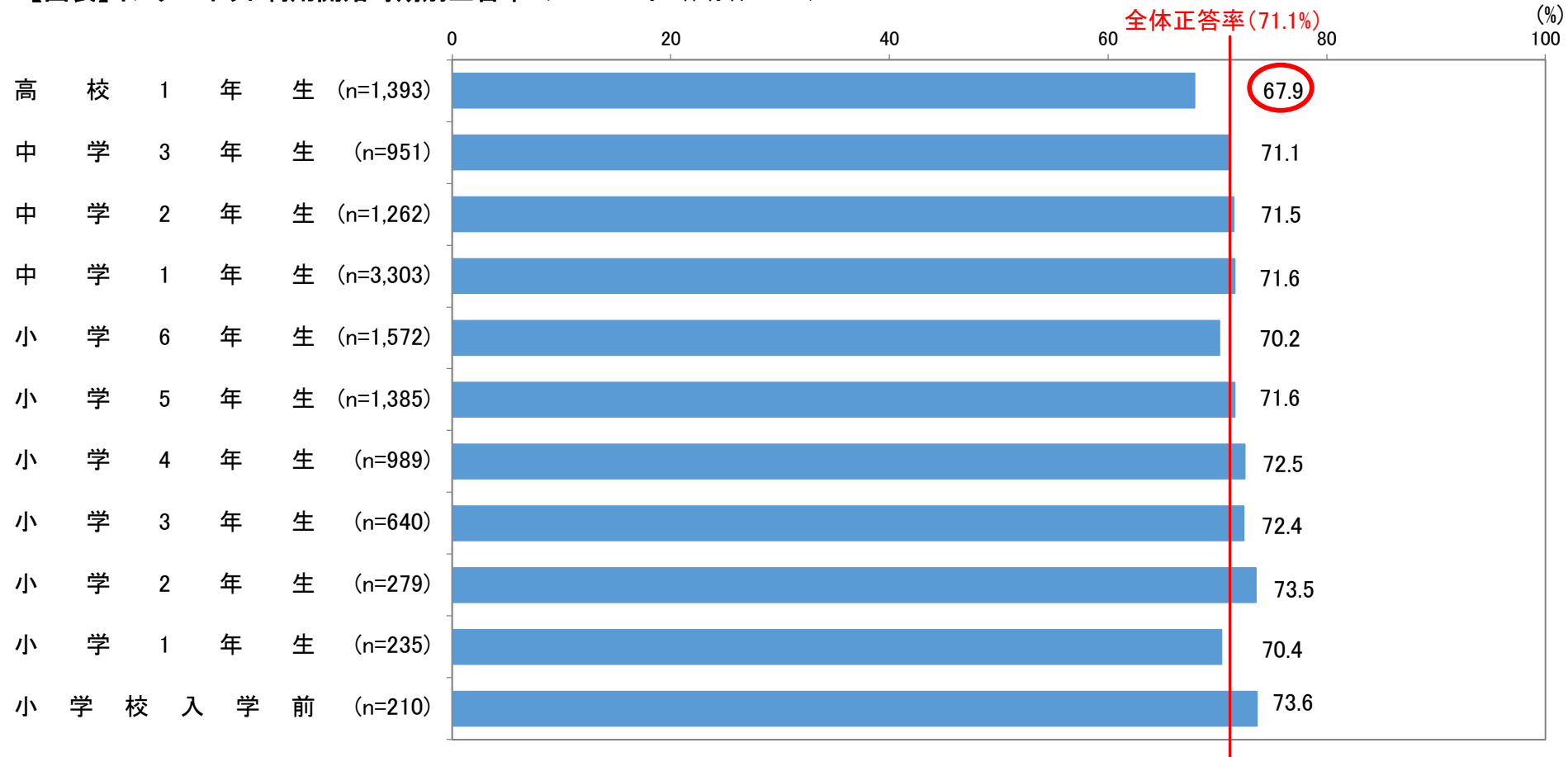
全体正答率(71.1%)



6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （インターネット利用開始時期）

- インターネットの自由な利用を開始した時期別にILASの正答率の違いの有無をみると、「高校1年生」で開始した者は67.9%と、それ以外の時期の者に比べて低くなっている。

【図表】インターネット利用開始時期別正答率（スマートフォン保有者ベース）



※「現在も、プライベートではインターネットを利用していない」(n=17)と回答した者は少数のためグラフより割愛した

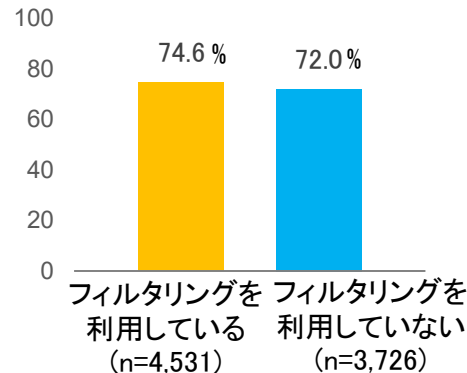
（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （フィルタリング利用と家庭でのルール）

- スマートフォンを保有し、フィルタリングを認知している高校生のうち、フィルタリングを利用している高校生（正答率：74.6%）の方が、フィルタリングを利用していない高校生（正答率：72.0%）に比べ正答率が高い。【図表1】
- 家庭でのルールがある高校生（正答率：72.4%）の方が、ルールがない高校生（正答率：70.4%）に比べ正答率が高い。【図表2】
- 家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無との関係については、スマートフォンを保有し、フィルタリングを認知している高校生のうち、「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合が74.9%と最も高く、いずれも「なし」の場合が71.8%と最も低い。【図表3】

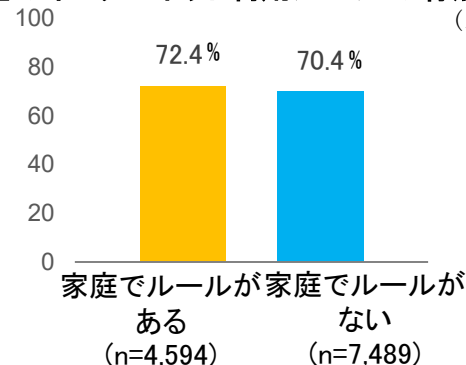
【図表1】フィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「知っている」と回答した者ベース）



【図表2】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース）



【図表3】家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「知っている」と回答した者ベース）

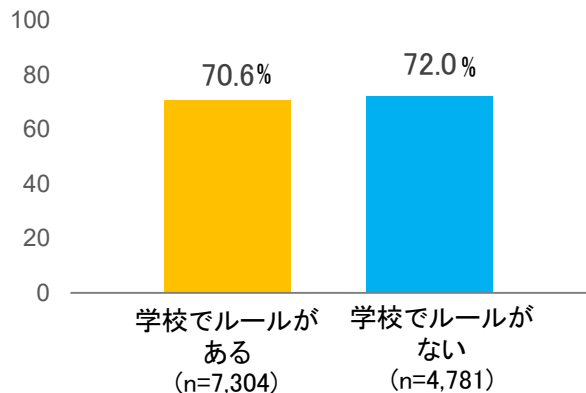
		家庭でのルール	
		○あり	×なし
フィルタリング利用	○あり	74.9% n=2,491	74.4% n=2,039
	×なし	72.9% n=834	71.8% n=2,888

全体の正答率は: 71.1% (n=12,250)

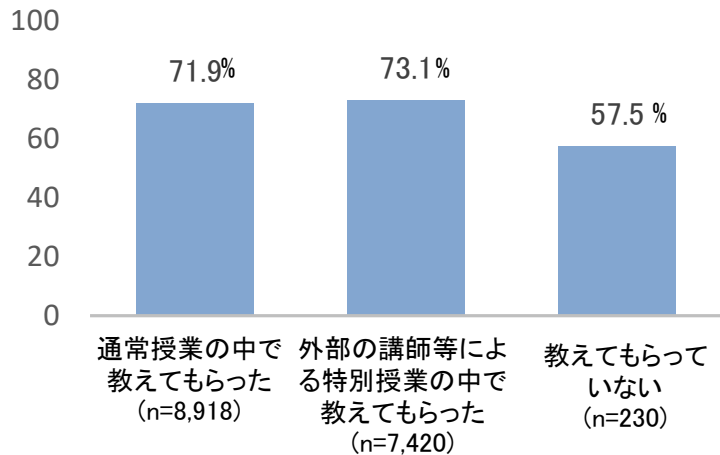
6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計）
（学校での学習やルールと家庭でのルール）

- 学校でのインターネット利用についてのルールの有無別では、ルールがある場合の正答率（70.6%）が、ない場合の正答率（72.0%）を下回った。【図表 1】
- 学校でインターネット利用上の危険について、「通常授業の中で教えてもらった」（71.9%）、「外部の講師等による特別授業の中で教えてもらった」（73.1%）高校生の正答率は高く、「教えてもらっていない」（57.5%）高校生の正答率を上回った。【図表 2】

【図表 1】学校でのインターネット利用ルールの有無と正答率
（スマートフォン保有者ベース）



【図表 2】学校の授業状況と正答率（スマートフォン保有者ベース）



【参考】家庭でのルールの有無及び学校でのルールの有無と正答率
（スマートフォン保有者ベース）

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
学校でのルール	○あり	71.6% n=3,312	69.8% n=3,987
	×なし	74.4% n=1,282	71.1% n=3,498

全体の正答率は: 71.1% (n=12,250)

7. 参考（啓発コンテンツ）

- 青少年のスマートフォン（インターネット）の安全・安心な利用に関して参考となる啓発コンテンツを、次のとおりご紹介します。

➤ ILAS調査に係る補助教材（総務省）

情報リテラシー＆情報モラルの高さがカギ「7種のリスクを正しく知ろう！」

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/

➤ デジタル・シティズンシップ啓発教材（保護者向け）

保護者を対象としたデジタル・シティズンシップ推進に資する啓発コンテンツ

動画（導入編）https://www.soumu.go.jp/main_content/000874560.mp4

動画（「デジタルをつかう時間は決めるべき？」）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000874562.mp4

動画（「ネットのやりとり、保護者は介入すべき？」）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000874563.mp4

動画（「SNS投稿は「盛って」いい？将来への影響は？」）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000874565.mp4

家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ～実践ガイドブック～

https://www.soumu.go.jp/main_content/000874784.pdf

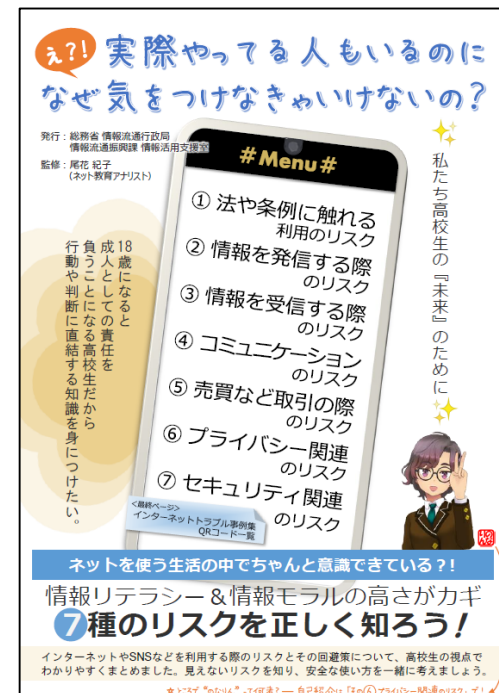
家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ～講師用ガイド～

https://www.soumu.go.jp/main_content/000874785.pdf

➤ 青少年フィルタリング及び海賊版対策に係る普及啓発動画
「フィルタリングサービス『NEWヒーロー？』編」

<https://youtu.be/NBbbHdoRK1I>

（ショート版：<https://youtu.be/AU8WaeRLXac>）



7. 参考 (ILAS)

- 総務省のインターネットの安心・安全な利用に関する啓発ウェブサイト「上手にネットと付き合おう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～」の特集ページにILASについて取り上げています。

上手にネットと付き合おう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～（総務省）

特集ページ(青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査)

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/

上手にネットと付き合おう！
安心・安全なインターネット利用ガイド

文字サイズ 大 中 小   総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

未就学児・未就学児の保護者 青少年(U18) 保護者・教職員 シニア インターネットトラブル事例集 **特集ページ** 動画コンテンツ集 リンク集

TOP > 特集ページ > 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査

特集ページ

**青少年がインターネットを安全に安心して活用するための
リテラシー指標等に係る調査
—ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)—**

総務省では、青少年のインターネット・リテラシー向上のため、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発しました。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施しています。



青少年に必要なリスク対応能力の分類

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）について、以下のように分類。

リスク分類	リスクの具体例	対応能力
1 違法有害情報リスク 		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、売上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2 不適正利用リスク 		
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3 プライバシー・セキュリティリスク 		
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を回リ利用できる。
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。